



BAUHAUS.
The house satisfies the functions,
and it's strong and am cheap and there should be it beautiful.

Bauhaus. Project



Architecture
Presentasion

architect
Tomoaki Kon

Architecture Lab
Kon office



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



注記文

※建築家住宅 (建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者 9 社における 2017 年度供給数
(株) 矢野経済研究所調べ/2018 年 10 月現在





担当建築家

今 知亮

Tomoaki Kon

一級建築士事務所アーキテチャー・ラボ KON オフィス@東京

何よりも『プロセス』を大切にしています。
クライアントと親密に意見を交わすことで、法規制による制約や暮らしの中の不便さを、独自の切り口で解決します。出来上がった住宅は、日常的に居心地がよいのではなく、愛着が沸き自慢したくなるような”心躍る”住宅にします。

Profile

- | | |
|--------|------------------------|
| 1981 年 | 北海道生まれ |
| 2006 年 | 有限会社アーキテチャー・ラボ |
| 2016 年 | アーキテチャー・ラボ KON オフィス 設立 |

デザインの素晴らしさ&長持ちするデザイン

今の日本の住宅の寿命は約 30 年というのが普通です。

ちなみに、アメリカでは 70 ～ 100 年以上、イギリスでは 100 ～ 120 年以上。

建物の設計や住まい方次第で、家の寿命を延ばすことは可能なんです。

日本と欧米、なぜこんなに違いがあるのか？

欧米では、ライフスタイルに合わせ自由に変更できる家なので、
お金もあまりかけずに、生活に合った良い暮らしをしたり、子どもの世代に受け継いだり・・・
そんな良い循環ができていますので建物の寿命が長いのです。

実際に、何十年も前にデザインされた建築や家具が今の時代でも愛され続け、
価値のあるものとして受け継がれています。



1904 年
バレルチェア



1920 年代
LC2/LC3 ソファ



1929 年
バルセロナチェア

近代建築の三大巨匠

▶ ミース・ファン・デル・ローエ
1931 年 サヴォア邸



▶ フランク・ロイド・ライト
1936 年 落水荘



▶ ル・コルビュジェ
1951 年 ファンズワース邸



建築家の高度な設計スキル

お客様のライフスタイルにあった設計をする上で重要なことのひとつに

『動線』を考慮することがあります。

動線とは、家の中を自然に動くときによく通る通路のこと。

普段の生活で朝の忙しい時間帯や、夜の家族でくつろぐ時間帯での

動線、炊事・洗濯・取り入れ・お風呂・就寝の準備など

家事をする時の動線、来客があるときの動線など、その家族に合った

動線を計画する必要があります。



お父さんの部屋

[illegible]

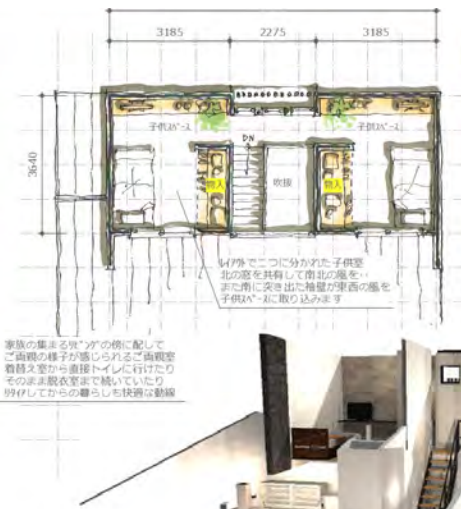
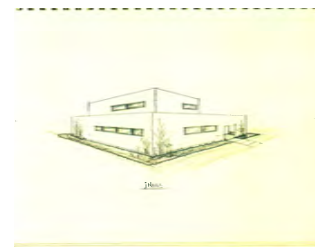
お母さんの部屋・押し入れ

[illegible]

それ以外、毎日の負担が減るように、WCを1番近くなるようにしました。
少しでもラクしていれば良いと思います。

全体の配置として

さほど大きな影響はLDKとは無関係)とのアセスメント。日々の生活の重なり合いと考へられた。あとは、大切にしたいのは和室の考え方もきちんと成り立つように……(心)です。■様御家族が安心して快適に暮らしていけるよう想いを込めて計画させていただきます。



敷地を読む

樹木は同じ種類でも同じ形のものは一つありません、枝ぶりも違う。

それは生えている場所が違うからです。

住宅も同じです。敷地に溶け込むデザイン、自然の風・光を利用するデザインになるべきなのです。

建築家は、まず敷地を見て、その中でお客様の要望を入れて全体的にデザインしていきます。



建築家 藤本誠生建築設計事務所@熊本 藤本誠生



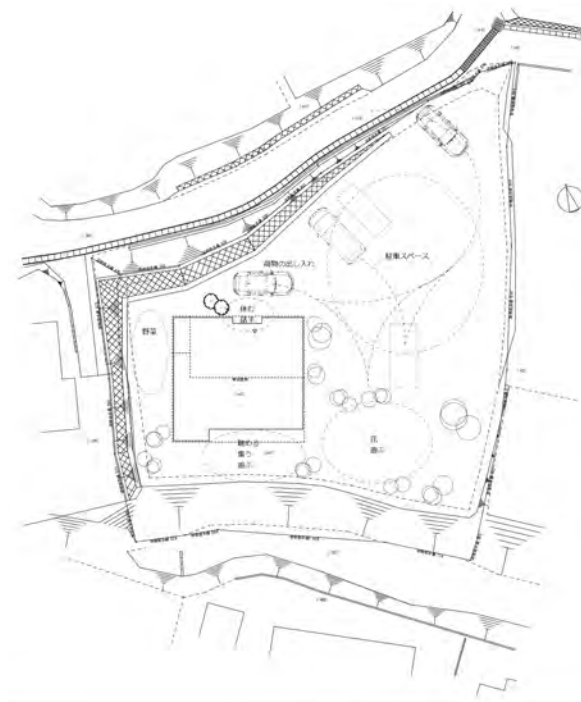
建築家 スギハラ建築設計事務所@広島 杉原豊実



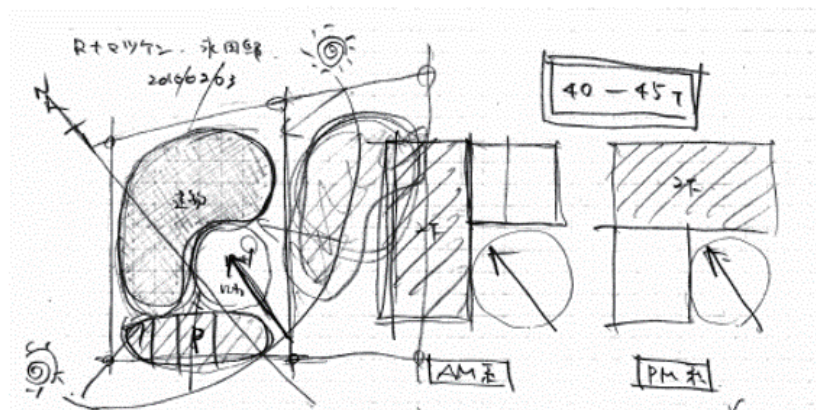
建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



光・風・周辺の交通量・車が多いか・
人が良く通るか・昼夜のギャップ・隣家と距離感・
隣家の窓・玄関位置・どんな部屋なのか土地の
個性を考え、間取りや窓の位置は必ずその敷地に
合わせて作りこまれています。



ヒアリング力と提案力

建築家と住宅会社の設計担当者とは、家づくりに対するアプローチが全く違います。

例えば・・・

LDKは何畳欲しいですか？
和室は何畳欲しいですか？

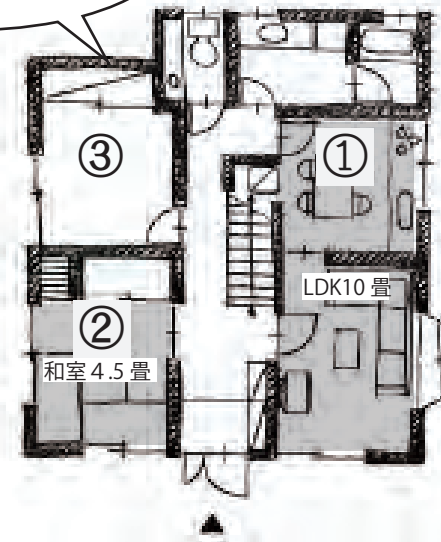
①リビングとダイニングは分けて全部で
12畳くらい欲しいです！

③洋室も1つ欲しいな

②和室は5畳あるといいなあ・・・！

空間の寄せ集めプラン

ご希望どおりのプランを作成しました。
いかがでしょうか？最高でしょう？



一見、要望を聞いてくれて反映させてくれているように感じますが、
これは要望をパズルのように当てはめただけの【空間の寄せ集め】になります。
それは、本当にお客様にとって最適な間取りなののでしょうか？

建築家は、こう聞きます。

「目をつぶって想像してください。建てた家で何をしている光景ですか？」

その答えが、一番やりたいことです。そのライフスタイルを実現してくれるのが建築家。

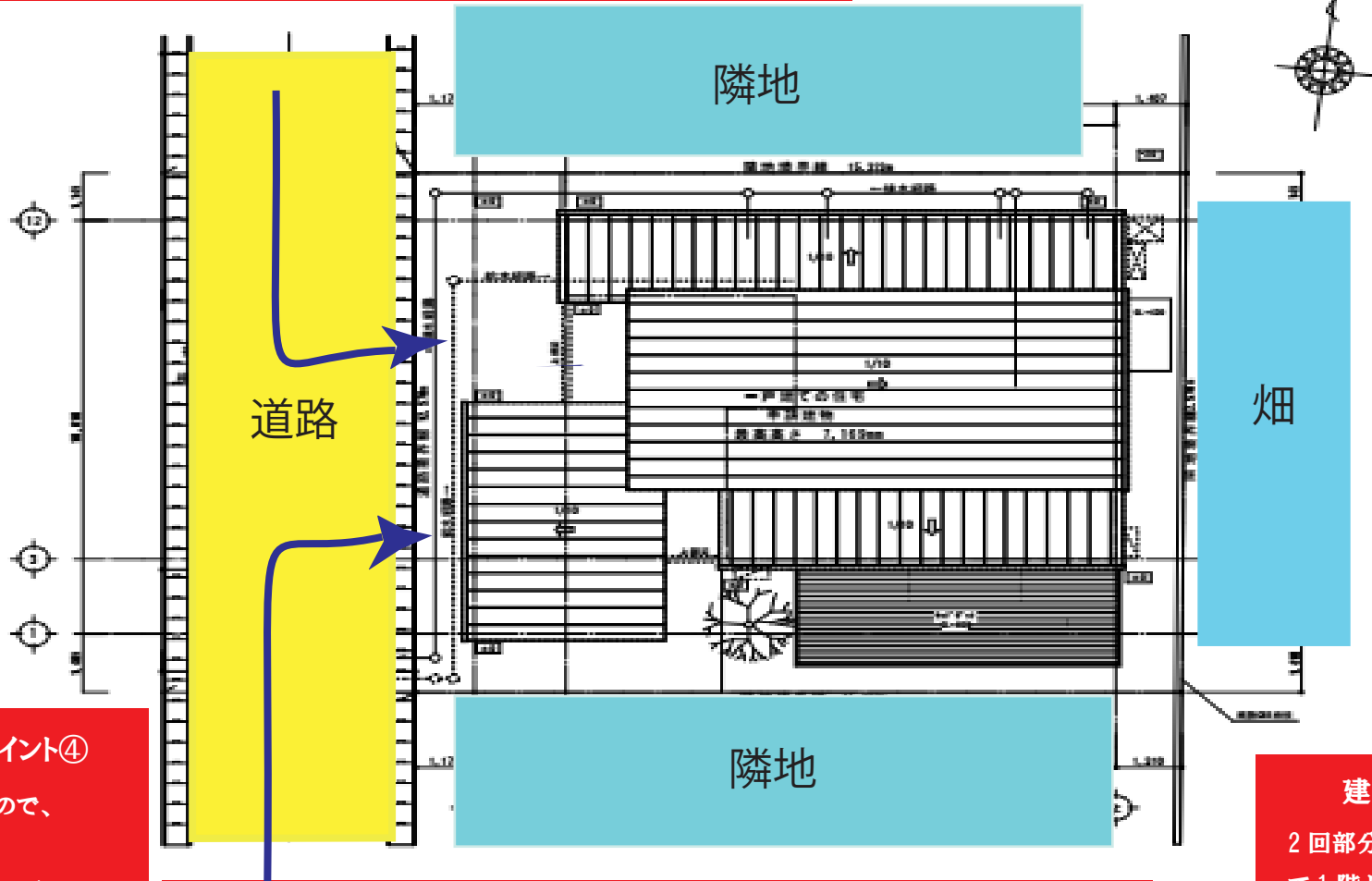
簡単にヒアリングされて出てきた間取りと、しっかりヒアリングされプロの建築家の知恵が反映された
結果とは違います。



さあ、建築家の提案を見てみましょう→

配置計画

建築家の解決ポイント①
 これから住宅が建ち始める分譲地。
 敷地は西側が道路と隣接しており、形状は道路との高低差もなく正方形に近い。
 もともと平屋希望だったが、敷地を实际見て平屋よりも2階をコンパクトにした平屋
 のような2階建てに。

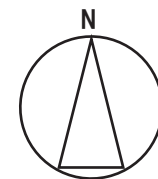


建築家の解決ポイント④
 リビングを南に配置したので、
 プライバシーも守れる。
 外から室内が丸見えをという
 こともない。

建築家の解決ポイント②
 建ち上がった建物のかたちは、これから建つ周辺の住宅よりも目立つようデザイン。
 道路から見たときの見え方が特徴的になるようにした。
 建物の中心に2階建て、その周りに3つの下屋を配置し、隣地に対して均等に距離を
 とった。風車のような4枚の異なる向きの屋根により、平面的にも立体的にも特徴的な
 住宅に仕上げている。

建築家の解決ポイント③
 2回部分北側・南側はあえて2階を削っ
 て1階より2階を小さくしている。
 そうすることで今後両側に家が建っても
 圧迫感をなくす建築家の気遣い。

1st floor



洋服や帽子が多いから、クローゼットは広い方がいいよね。
あとやっぱり、来客時に見えないような位置にしたい。



脱衣・ランドリールームは兼用がいい。
水回りは、コンパクトにまとめたい。



家族全員分と季節ものや節句ものを一括収納できるようにファミリークローゼットを設けました。
ランドリールームで室内干しした衣類などもたたくのでそのまますぐ収納できる位置に。



浴室・洗面・脱衣・洗濯の家事導線をまとめました。
十分な広さのランドリースペースを確保し廊下と兼ねることで広く使えます。
また、階段近くに洗面とトイレがある事で2階からも使用しやすい位置に。もちろん、LDK との距離も近いので使いやすいです。



ベビーカーを置いたりできるような広いシューズクロークあったらいいな。
でも、丸見えは嫌だわ。



自然とリビングに集まるような空間にしたいよね。
キッチン、立っただけでも家族の様子が見えるよう LDK 向きにしたい。
キッチンとダイニングはフラットにしたい。
あと、電子ピアノもリビングに置きたいわ。



玄関とシューズクローゼットは一体感を待たせています。
仕切ってしまうより、広く色々な使い方が可能です。



駐車場は、雨にも濡れないようインナーガレージにしたいね。



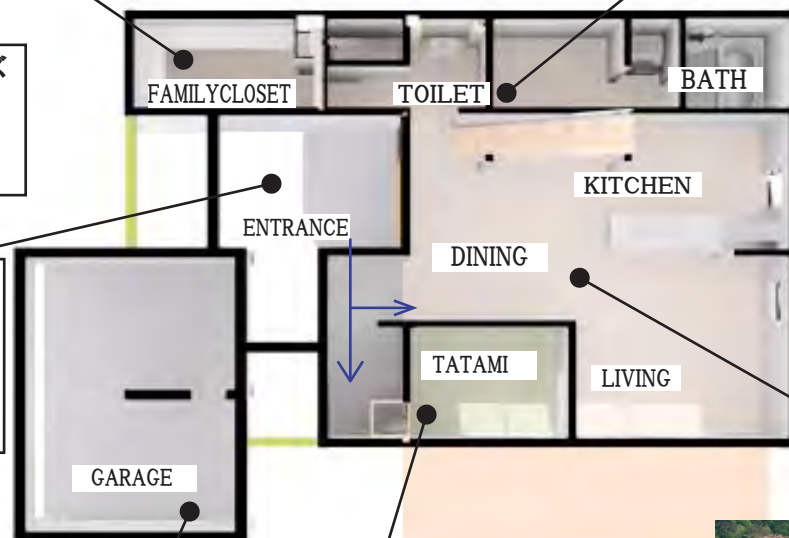
まず、テレビに対してキッチンとデッキが両サイドにある横長に広いリビングになっています。
キッチンは、オリジナルの造作テーブルなどにも対応できるよう計画。
または、勝手口を設けゴミなどを外に置くことが可能です。電子ピアノは、デッドスペースになりがちな階段下のスペースを有効に使えるようにしました。



子供が小さいうちは和室に布団を敷いて寝るし、後々両親と住むことを考えると和室は欲しいよね。

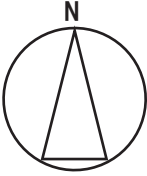


普段は、和室も LDK の一部として使って頂けるようにこの位置に。
リビング側は開口部となっているので、ロールスクリーンやブラインドで目隠しする事で空間にアクセントをつけました。



西側に2台分まとめて、ハーフガレージとして計画。
ゲスト用1台は玄関アプローチと兼ねた、省スペース化を図りました。
ガレージと建物の間を少しあけることで、壁に光が入り開放的になるように計画しています。

2nd floor



LDKを感じながら2階へ行けるような感じにしたい。1階とのつながりも欲しいね。



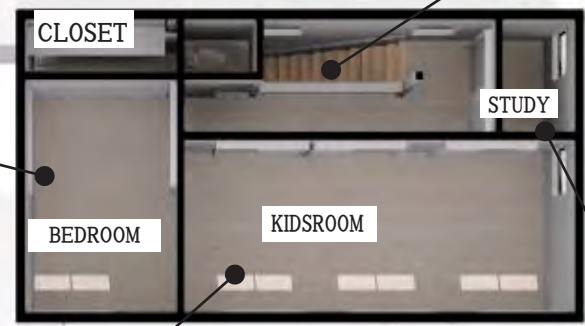
2階にも布団を入れる収納があるといいね。



6帖 + 収納の主寝室を設けました。南側と西側の2面彩光でゆとりあるスペースを確保しています。



階段上部にFIX窓を設置することで、1階部分に光を落とします。
1階LDKとの繋がりを考慮しつつ、リビングからは見えない位置に。



子供部屋は、3部屋欲しいけど最初から仕切ったほうがいいのか後から仕切ったほうがいいのか悩むよね。



子供さんが小さいうちは広くのびのびと自由に使っていただけるようオープンにするほうが使いやすいと思います。
将来的に間仕切る事を想定した窓の配置にしていますので、壁を設けてもいいですしパーティションなどで仕切ってもいいと思います。南面にすることで、明るい部屋になっています。



書斎なんかがあると嬉しいけどな。まあ、無理にじゃないですが・・・



1.5帖の書斎を設けました。デスクと収納を置くことが可能です。扉を開けてたまま家族の気配を感じることができ閉めれば完全個室となり集中できる空間に。



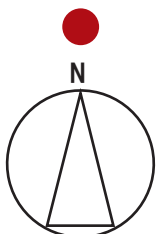
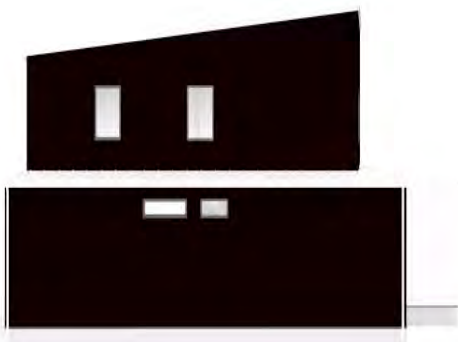
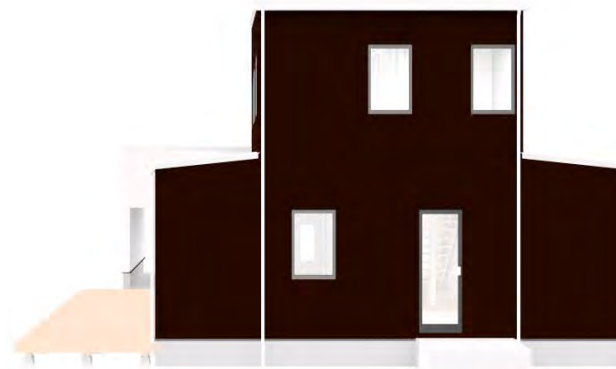
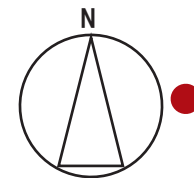
わー！書斎がある！すごく嬉しいです。



南側。現在は空地だが今後家が建った場合、隣家の裏側になる可能性が高い為、隣地から距離を取った配置計画。南側に庭をつくり庭に各部屋が面する事で採光を確保。



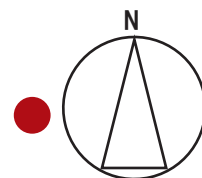
東側。今は畑だが今後家が建つ可能性あるため縦長の窓にすることで外からの視線を入りにくくする。



北側。隣家の南側の開口部に来ることが予想されるので横長の窓で目線より高く配置することで外からは見えない。プライバシーに考慮した窓の配置計画。



西側。道路の反対側に住宅が建つが距離があるためプライバシーはそれほど心配ない。正面からは玄関ドアが見えない位置に配置。玄関ドアが開いたときに丸見えになることがない。



熊本風配図

・・・とは、ある場所における一定期間の風向の頻度を八方位もしくは一六方位に分けて表し、同時に各風向きの平均風速をも示したもの。

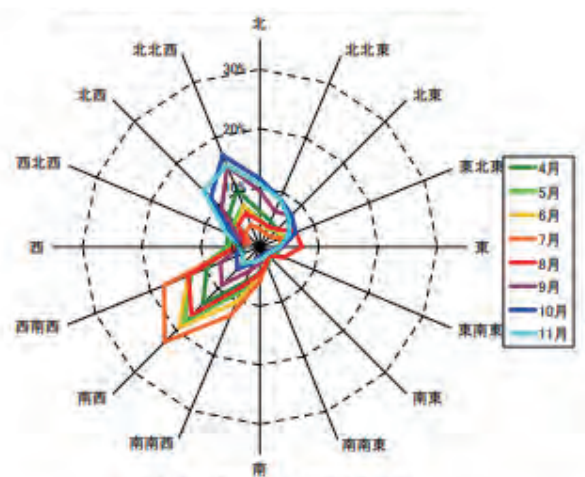


図4a 月別風配図(起居時)

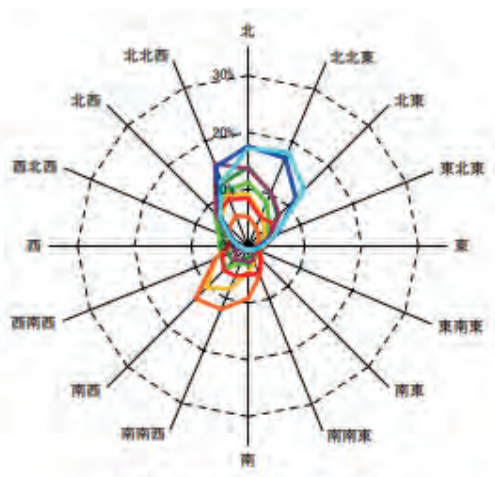
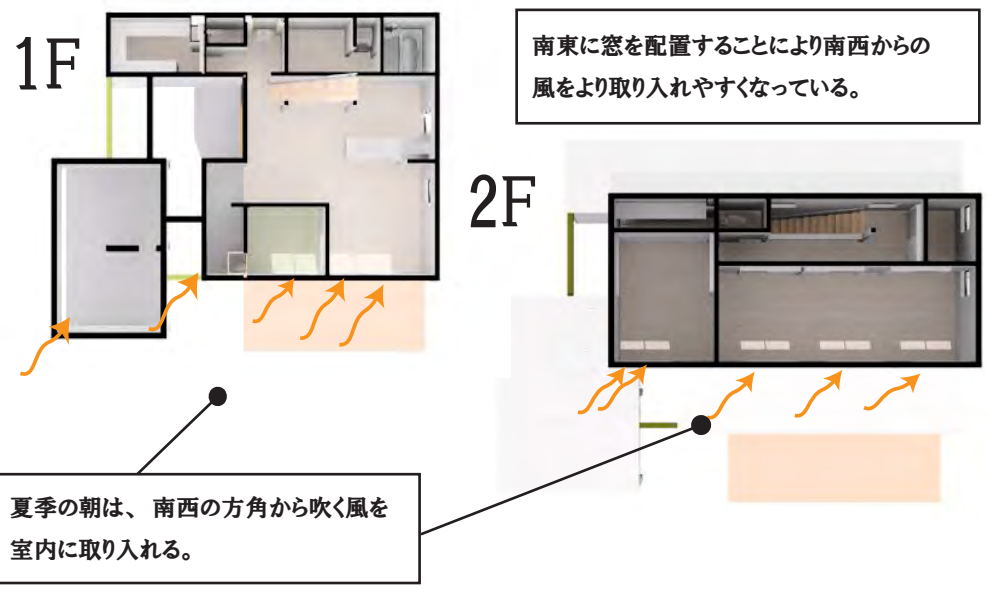
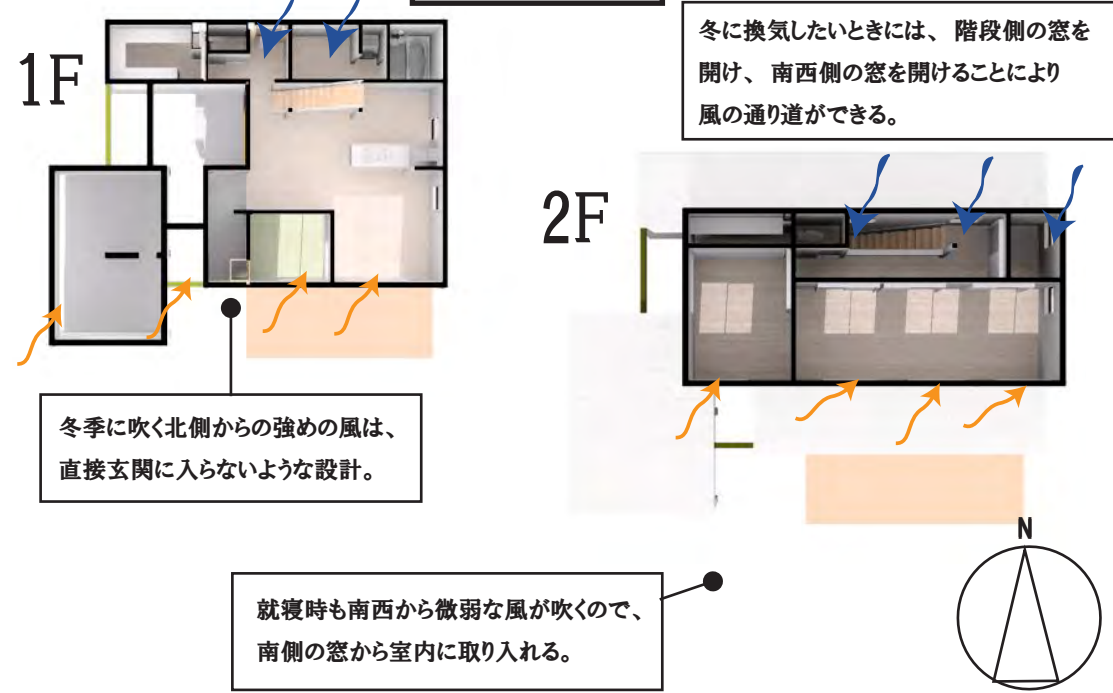


図4b 月別風配図(就寝時)

起床時



就寝時



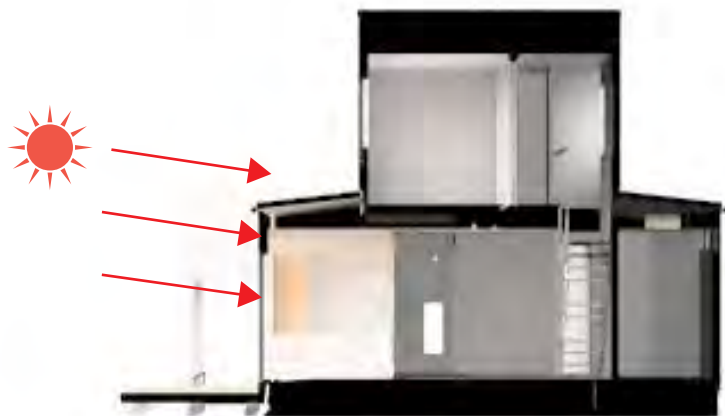
冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

真冬午後12時



(冬至)

太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。

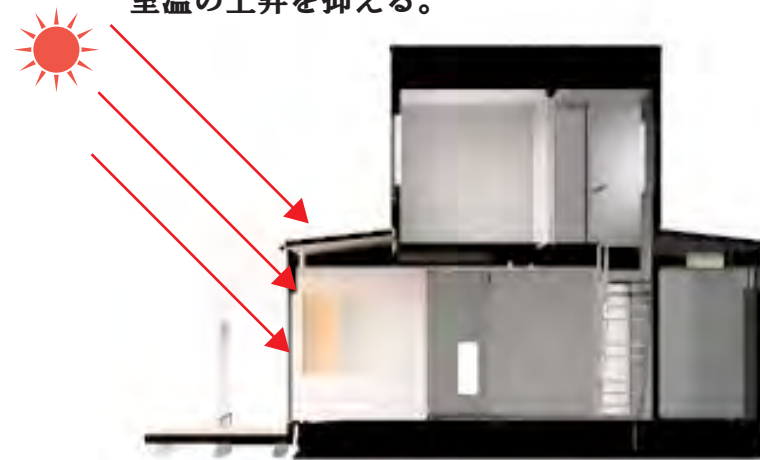


真夏午後12時



(夏至)

太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。